

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	なかよしケア(なれなれしいケア)はしない方向で、言葉使いや居室に入る時は、ノックの徹底、トイレではカーテンを必ず閉めるように取り組んでいるが、一つのユニットで家族の要請もあり、「ちゃん」付けで利用者様を呼んでいる現状である。	人生の先輩である利用者に対しての言葉かけなどについて、研修等を行い全職員で再度確認、共有する。	評価当日の意見を踏まえ、検討会を開き報告、改善するように促した。施設内研修で4月接遇マナーを行ったが、改善されていないため、外部から講師を依頼 9月 19日に「福祉・介護に携わる人の接遇マナー」を開催し意識改革取り組む。	3ヶ月
2	4	二か月毎定期的に開催し、民生委員・地域包括支援センター、地区社協、家族の参加があり、活動報告や運営に関する意見を求め、ホームの行事や日々の運営にいかしているが、地域「自治会」の区長、地域住民の参加が無い。	地域の方々に気楽に出向いてもらえるように、パンフレット・施設の生活の様子などの便りを回覧して頂き、施設を知ってもらう。地域の消防団、地域住民と一緒に防災訓練を行い、地域との連携を図る。	地域自治会の区長、地域消防団の団長、地域住民の参加が得られるよう、案内文を送付又は回覧する。会議議事録は、職員全員から確認の押印・日付け記入を徹底するように取り組む。	3ヶ月
3	6	玄関の施錠は、日中は行っていないが、外柵の門扉は終日施錠となっており、不審者対策で行っている。身体拘束の外部研修、復命研修を行い、身体拘束の具体的行為、弊害について勉強しているが、把握できているかの確認ができていない。	地域の方の気楽な来訪を想定、緊急災害想定し日中の門扉の開錠をする。毎月の施設内研修に身体拘束の研修を組み入れ、全職員がしっかりと把握できる。	職員との検討会にて日中9時～18時までは、複数の職員が勤務しているので開錠する。不審者、利用者様の外出に留意の強化を図る。身体拘束の研修をチームを組み、職員に行ってもらう事で再認識を図る。	6ヶ月
4	1	現在の理念は、前管理者が定め、職員間での共感がない。(いつの間にか、設立時の理念が変わっていた)	家庭的な雰囲気の中での介護、プライバシーや権利・個人の尊重について、地域の中での暮らしの支援が定められる、全職員が共感・共有できる理念の作成をする。	施設内研修において、理念についての講習を行い、全職員に理念を2～3つ考えてもらい紙面にて提出、要約して理念の構築に取り組む。	3ヶ月
5	23	現在のアセスメント様式では、利用者様の意向や希望を把握できていない。根拠となる記述がなく不十分である。	利用者様の意向や希望がしっかりと把握できる、アセスメント様式を確立する。	利用者様の意向や希望を更に把握するためアセスメント様式の検討を図る。(他のグループホームとの情報交換、包括支援センターに相談等)	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。